

対話型システムの研究

電子情報科 志賀 蒼 吉野 遥哉 白柏 天真

背景

音声認識を使用することで、キーボードより速く入力が可能となり、手足が不自由な人も気軽に利用できると考えた。

目的

コンピュータとの対話を実現することで、案内ロボットなどの広い分野で利用できるものを作れないか考えた。

結果

```
認識結果:  
--> こんにちは。  
出力結果  
こんにちは  
待機  
認識  
認識結果:  
--> こんばんは。  
出力結果  
こんばんわ  
待機  
認識  
認識結果:  
--> 今日の天気。  
出力結果  
現在の天気を表示します  
待機
```

こちらの問いに対して、適切な答えを音声として出力させることができた。その他に天気を聞けば、天気がわかるWebサイトを開いたり、時間を聞けば音声で現在の時間を答える機能をつけた。

テンション上がるわあ

エキサイティングだね

考察

誤変換が生じて、修正できるプログラムを入れれば、汎用性が増すだろう。

文法を理解させることができれば文章の読み取りも可能になるだろう。

方法

コンピュータとの対話をしよう！

音声認識プログラムを作るためプログラムの勉強

短期間の学習では厳しいと判断

音声認識ソフト(julius)を使い対話プログラムの作成